



日本医療機能評価機構  
認定第 JC1684号

日本医療機能評価機構 認定病院

## 庄原同仁病院 広報誌 第32号

発行 庄原同仁病院広報新聞委員会

〒727-0203 庄原市川北町890-1

Tel: 0824-72-7300 Fax: 0824-72-7333

e-mail doujin@sweet.ocn.ne.jp

URL <http://nagaekai.com/>

### 読書のすすめ

院長 村尾 文規



私たちは、感謝する心を、次第に失いつつあるように思えてならない。

食事のときの『いただきます。ごちそうさま』とは、食材の命をいただきます。食事を作ってくれた方々に感謝するという意味だと聞いている。

今や、コンビニに行けば24時間いつでも温かい弁当を得ることができるし、最低限度の生活必需品さえ手に入れることができる。便利な時代である。

便利といえば、スマホの普及は目をみはるばかりである。このツールを使えば、一瞬にして不特定多数の人々とのコミュニケーションが可能である、しかも相手の取捨選択は意のままである代わりに、何事にも待てない人間、孤立、忍耐力の低下、家族の団欒の機会の減少へと駆り立てているのではないかさえ思う。

便利さの追求は、家庭の奥深く影を落としていると言ってよい。殺伐としたニュースが多いのも、『便利さ』の追求と無縁ではないであろう。

幸いなことに、私たちは、お互いの勤労に感謝し、敬意を表すために、行動規範として『ありがとうございます。お疲れさま』と言い交わすこと正在している、小林弘幸氏の著書を引くと、感謝することには、自律神経を整え、すべての好転させる力を持っているらしい。

ストレスをリセットする力を持っていることになる。私たちは、日常で感謝すべき多くの機会を見逃している可能性がある。感性を豊かにしなければならない。60歳のラブレター (NHK出版) には、感謝する機会が如何に多いことか思い知らされる。

他人を批判することの虚しさを知るべきである。ぜひ、ご一読ください。まず、人生のパートナーに感謝の気持ちを伝える文章を書いてください。仕事の仲間へ、感謝の気持ちが伝えることができれば、人間関係は、間違なく改善し、働きやすい職場に一步近づくことは間違いないと思っています。



(院内読書会の開催にあたって平成29年3月 村尾文規)

### 基本理念

わたくしたちは、すべての人に等しく  
仁愛の精神をもって接し、  
心の通う医療の実践に努めます。

### 基本方針

患者様の満足: 常に患者様の立場に立って行動します。  
職員の満足: 働きやすく、やりがいのある職場づくり  
に努めます。  
地域の満足: 医療サービスを通じて地域の方々に喜ば  
れるよう努めます。

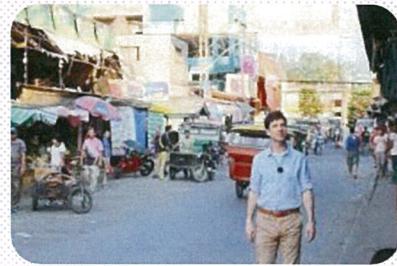


## 海外ボランティア in the philippine

看護師 大田 実果



2016年10月から休職をして海外留学に行ってきました。始めに訪れたのはフィリピンです。語学学校に通いながら孤児院でのボランティアに参加しました。フィリピンで生活をする中で、当たり前のことが当たり前ではなく、日本人の私には驚く事が沢山ありました。例えば、シャワーは水しか出ません。現地では、雨水で毎日の生きる水を確保していました。決して綺麗な水ではないので、そのまま飲むことは出来ません。また、街に出ると窃盗も多く、夜間は外出しないようにしていました。フィリピンの都市部は経済発展していますが、私が行ったミンダナオ島はストリートチルドレンや孤児が沢山いました。孤児院にやってくる子ども達の背景は貧困、虐待、育児放棄、捨て子、など様々です。孤児院の子ども達の多くが病気を持っていました。しかし、医療が発展していない為、充分な治療が受けられず亡くなってしまう子も中にはいます。子ども達はこの様な環境の中でも、



決して不満を言うこともなく常に笑顔で生活していました。子ども達から沢山の事を学びました。特に現地の生活で苦労したとは思っていません。むしろ、毎日の生活がとても充実していました。現地の人は、とても物を大切にしており、与えられているものだという自然に対する敬意や感謝の気持ちっていました。自分自身がこれまで日本でどれほど恵まれた環境にあったかを実感し、深く考えさせられる貴重な経験になりました。



写真はイメージ写真で大田さんの寄稿文とは関連しません

おかえりなさい。経済発展の格差、貧富の格差は、グローバルに拡大しています。今や、国内にもその影を落としています。このたび、経済発展途上国での研修中に得ることの多い時間をすごされたという寄稿文に新鮮な驚きを感じ得ません。「当たり前」は、誰も教えてくれません。この留学は、「当たり前」を考える貴重な機会だったと思います。経済格差、貧富の格差の中でも子供たちから笑顔が失われていなかつたことは、新鮮な驚きだったに違いありません。幸せは、物質の豊かさと無関係であることを如実に示していると言えるのではないでしょうか。寄稿文を読んで、「当たり前」とは何か、幸せとは何か、考えさせられました。 (村尾 文規)



### 職員募集のお知らせ



お問い合わせ先 0824-72-7300  
管理部 山崎まで



看護部より、看護補助の仕事（入浴介助・食事介助など）をして下さる方を募集しています。短時間からフルタイムまで希望に応じた時間で働いていただけます。子育て中の方や時間にあまり余裕のない方、ぜひ、ご相談ください。



栄養課より、調理員さんを募集しています。資格・経験は問いません。元気に明るく一緒に働いて下さる方をさがしています。

## 園芸療法の取り組



今年も去年に引き続き、患者さんと一緒に園

芸療法をとり入れていきます。4月25日には、じゃがいもの苗植えを行いました。畑仕事の大先輩である患者さんの助言をもらいながら、「種芋は、こがにい植えるんよ」「もうちょっと土を入れにやあ」と、笑顔いっぱいの中で、無事、苗を植える事ができました。「大きい芋ができたら、どうやって食べようかね」と収穫も楽しみにしておられます。



5月11日には、朝顔の種蒔きを行い、昨年以上のグリーンカーテンが出来るのを楽しみに、水やりや花の鑑賞ができたらと思います。今年は作物を中心にアクティビティ委員会で計画し、成長や収穫を楽しみに、今後はじゃがいもの収穫、人参の種蒔きと収穫、カイワレ大根のスプラウト栽培などを

種芋の植え付けはこがにいよ！予定しています。



朝顔は病室・廊下の日よけになります

(国重みどり)



## 癒しの空間作り



西村美智子



当院の特色である豊かな自然を生かし、患者様とご家族が自然に触れながら、心穏やかに散歩ができる場所を！また患者様に土を懐かしんでいただくために芝生だった場所を花壇と菜園にしました。



今、畑ではスイカのつるが元気いっぱいです。



トマトとメロンがすずなります！

花壇は、バラ園と日本の草花を集めたふたつのエリアで形成されています。今、菜園にはジャガイモ、オクラ、スイカ、メロン、トウモロコシ、トマト、などなど患者様が夏を感じられる野菜果実が狭いなりに仲良く育っています。

## ～山ちゃんの旅日記～



看護部 山吉広尚



公園には散策や写真撮影に多くの人が四季を通して見えられます。

6月21日、天気を心配しつつ広島空港近くの三景園へアジサイ・菖蒲を見に行きました。そこでは6月10日から7月2日まで花祭りが行われ、100種類10,000株のアジサイが見ごろでした。北門入口近くまで行き、色彩も色々ありました。この期間が終われば次は、9月下旬の観月会で月明かりに照らされた庭園を楽しむそうです。その後は紅葉と続き、1年を通して楽しめる庭園です。





## Topics .1

# 庄原中学校職場体験

今年も2人の庄原中学校の男子生徒さんが職場体験に来られました。

各部署でいろんな仕事を体験していただきましたが、若いパワーでなんでもすぐに吸収し覚えられ、患者さんとも上手に接して患者さんからも喜ばれていました。1週間お疲れ様でした。将来この経験が何らかの役に立つことを願っています。



食器洗浄を体験しました



物品倉庫で出庫のお手伝い

### 【生徒さんの感想】

この1週間、充実した体験が出来ました。僕が学んで一番大切だと思ったことは、患者さんへの接し方です。接し方の部分では患者さんの体調や心の状態に合わせて接するということです。そのために理学療法士の方は毎日患者さんの体調を色々な器械を使って調べていることがわかりました。この1週間で学んだことを今後生活に生かしていきたいと思います。（宮野波流）

この1週間の職場体験は満足する体験が出来ました。この同仁病院で学んだことを生かして、これから的人生を進んでいきたいです。（板倉政志郎）



## 写真同好会 春の撮影旅

## Topics .2



歴史あるどっしりとした灯台でした



## 新入職員の紹介

次の方が新入職員として入職されました。よろしくお願いします。

看護師 貞宗真帆 「患者様に笑顔になっていただけるよう頑張ります！」

看護師 谷川知明 「4月に入職しました。よろしくお願いします。」

看護師 前谷久美 「新人の前谷久美です。1日も早く仕事に慣れるよう頑張ります。よろしくお願い致します。」

介護福祉士 谷川由紀子 「1病棟の谷川です。よろしくお願いします。」

調理員 實延泰宏 「6月から栄養課でお世話になっています。頑張りますのでよろしくお願いします。」



明るく優しい職員が増えました。



## 編集後記

暑中お見舞い申し上げます

「うう一暑い暑い」今現在ほぼ毎日、何回も口に出している言葉である。仕事終わりには、ぐったりと疲れがでることもあります。私自身、以前は四季で夏が一番好きでした。しかしながら年を取る度に体力的にも暑さが身体に堪えるようになっております。んんーいかん、いかん。元気をだして、しっかりと身体を動かしてしっかり食べて、この暑い夏も頑張りたい。とは思っています。皆様も健康に留意されこの暑い夏を乗り切るようにしてくださいね。

(伊達信介)